

第2期
安来市まち・ひと・
しごと創生総合戦略



令和6年3月 改訂

1 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

本市においては、安来市の将来人口の展望を示す「安来市人口ビジョン」における将来目標人口の実現に向けて、平成 27 年に「安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、4 つの基本目標に基づき取組を進めるとともに、産官学金労言等の有識者により構成する「安来市創生総合戦略推進会議」により、戦略の効果等の検証を行うなど、人口減少対策を進めてきたところです。

<第 1 期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標>

- 《基本目標 1》 若い世代の結婚・出産・子育てを“支援（てご）”する
- 《基本目標 2》 産業振興により、若者に魅力ある雇用の場を創出する
- 《基本目標 3》 住環境を向上し、市民の定住意識を高める
- 《基本目標 4》 多種多様で魅力的な“地域（じげ）”を形成する

基本目標に基づく個々の取組は、一定の成果を上げている一方で、本市の人口は若い世代を中心に人口ビジョン策定時の想定を超えて減少が進んでおり、平成 30 年の国立社会保障・人口問題研究所の推計により、さらなる人口減少の加速が想定されました。

この対応に向けて、本市では市長を本部長とする「安来市人口対策本部」による協議を進めるとともに、「安来市創生総合戦略推進会議」から各分野の専門的知見によるご意見をうかがいながら、今後の人口減少抑制・人口構造改善とともに、人口減少適応のあり方について、検討を重ね、令和 2 年 3 月に「第 2 期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

以降、総合戦略の策定から 3 年が経過し、この間、新型コロナウイルス感染症の流行による社会情勢の変化などもあったことから、各施策を展開するための事業と現状との隔たりが見受けられるようになりました。

また、国は、令和 4 年 12 月にデジタル田園都市国家構想の実現に向け「第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、令和 5 年度から令和 9 年度までの 5 年間の計画期間とする「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を



策定しました。

こうした状況を踏まえ、「第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、既存事業の見直しを行うとともに、国の総合戦略を勘案し、デジタル技術の浸透・進展を新たな視点に加え、改訂を行います。

新たな視点

1. 人口減少への適応

人口減少を前提に、そうした状況でも活気があり、安心して豊かな暮らしが営めるまちづくりに向けた取組の検討 など

2. 女性が活躍できる地域社会の構築

女性のUIターン促進と転出抑制、女性を意識（ターゲットに）した事業展開、女性の視点や意見の反映 など

3. 新しい時代に向けた取組へチャレンジ

新たな概念である Society5.0 に関連した考え方等を踏まえた取組の検討 など

4. デジタルデバイド（情報格差）対策の推進（R6追加）

市民のデジタル活用の促進、民間企業・公的分野におけるデジタル化の推進、デジタル社会の共通基盤の構築 など

「第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、第1期で根付いた地方創生の意識や枠組み・取組を継続しつつ、第1期の取組・検証結果や市が抱える人口の課題、国の方針も勘案した新たな視点等を踏まえ、地方創生のより一層の充実・強化に取り組んできました。

デジタルデバイド（情報格差）対策とデジタル社会への変革を進め、市民全体がデジタル化の恩恵を享受し、その価値を実感することのできる「デジタルで人と未来をつくるまち」を目指し、次の基本目標の達成に向けて取り組めます。

・基本目標と数値目標

基本目標1 結婚・出産・子育てを支援し、女性の定着を図る

人口の自然減を抑制するためには、出生数の減少に歯止めをかけることが重要です。そのため、市民が、安心して子どもを生み・育てられる環境づくりに取り組みます。また女性の視点を反映させた施策や事業の展開により女性の定着を図ります。

【数値目標】

指標	基準値	目標値
出生数	241人 (H30)	272人 (R2～R7年平均)
女性の社会増減数	△101人 (△45人) (H30)	+232人 (R2～R7 累計)

資料) 出生数の基準値は、出生届の数(4月～3月)・女性の社会増減数の基準値は総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」()内は外国人を含んだ数

基本目標2 産業振興により、魅力ある雇用の場を創出する

就学のために市外に転出した若者が安来市に帰ってくるためにも、市民の就業の場の確保や機会を充実していくためにも、魅力ある雇用の場が必要です。安来市の地域資源を活かした産業振興に取り組み、安来市で働きたいと思える雇用環境の整備を図ります。

【数値目標】

指標	基準値	目標値
市内就業者数	19,349人 (H27)	19,300人 (R7)

資料) 基準値は、平成27年国勢調査

基本目標3 住環境を向上し、市民の定住意識を高める

安来市民の生活・住環境に対するニーズにあったまちづくりを進めることによって定住意識を高め、転出を抑えていくことを目指します。

【数値目標】

指標	基準値	目標値
社会増減数	△171人 (△79人) (H30)	344人 (R2～R7 累計)

資料) 基準値は、総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」()内は外国人を含んだ数

基本目標4 多種多様で魅力的な地域を形成する

市街地や中山間地域等、多様な地域を抱える安来市の特性を尊重しながら、持続可能で魅力あふれるまちづくりを目指します。

【数値目標】

指標	基準値	目標値
安来市への愛着度	61.6% (H30)	70% (R7)

広域連携 広域連携による魅力ある圏域づくりをめざす

県境を越えた広域連携により、国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成、未来をひらく交通ネットワークの形成、恵まれた生活環境を生かした圏域の形成により、住みたくなる圏域づくりを目指します。

【数値目標】

指標	基準値	目標値
圏域人口60万人の維持	64.4万人 (R1.10)	60万人 (R6)

※中海・宍道湖・大山圏域市長会の第2期地方版総合戦略の終期は令和6年までです。

第2期 安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020～2025）の体系

基本目標1. 結婚・出産・子育てを支援し、女性の定着を図る		指標の名称	単位	基準値	現状値 R4	目標値 R7	
		出生数(R2～R7平均)	人	241	183	272	
		女性の社会増減数(R2～R7累計)	人	△101	△374	232	
施策		事業	重要業績評価指標(KPI)				
		指標の名称	単位	基準値	現状値 R4	目標値 R7	
(1)結婚しやすい環境づくり	◇結婚活動支援事業	市が行う結婚活動支援事業による成婚数(単年)	組	2(H29)	5	4	
	◇不妊治療費助成事業	不妊治療費の助成数(単年)	人	62(H30)	84	70	
	◇放課後児童健全育成事業	放課後児童クラブ入所希望児童受入率(単年)	%	94.1(R1)	98	100	
(2)出産・子育て環境の充実	◇子ども医療費助成事業	—	—	—	—	—	
	◇地域子育て支援拠点事業(子育て支援センター・つどいの広場)	子育て支援センター利用者数(月当たり平均)※つどいの広場利用者含む	人/月	588(H30)	324	763	
	◇母子健康情報アプリ事業【デジタル】	アプリ登録者数	人	—	89	500	
	◇マタニティ応援事業	参加者数(累計)	人	—	0	500	
基本目標2. 産業振興により、魅力ある雇用の場を創出する		指標の名称	単位	基準値 H27	現状値 R4	目標値 R7	
		市内就業者数	人	19,349	—	19,300	
施策		事業	重要業績評価指標(KPI)				
		指標の名称	単位	基準値	現状値 R4	目標値 R7	
(1)ものづくり産業等の振興	◇企業立地雇用促進事業	立地企業数(累計)	件	14(H27～H30)	21	26	
	◇サテライトオフィス事業【デジタル】	市内高校生の市内就職率(単年)	%	34(R2.1)	42	40	
	◇新規就農円滑化対策事業	サテライトオフィスを利用する企業数(累計)	社	—	0	6	
	◇スマート農業事業【デジタル】	認定新規就農者(累計)	人	18(H30)	31	34	
(2)農林業の振興	◇林業DX推進事業【デジタル】	スマート農業関連設備の試行・運用	施設	—	0	1	
		施設計画立案労務の低減率(ha当たり)	%	—	0	20	
		原木生産量増加率	%	—	0	70	
(3)商業等振興への支援	◇産業サポートネットやすぎ事業	産業サポートネットやすぎによる支援件数(単年)	件	50(H30)	35	50	
(4)地域資源を活かした観光振興	◇誘客推進事業	—	—	—	—	—	
	◇デジタル技術の活用による観光振興事業【デジタル】	宿泊者数(単年)	泊・人	35,417(H30)	31,324	36,000	
基本目標3. 住環境を向上し、市民の定住意識を高める		指標の名称	単位	基準値 H30	現状値 R4	目標値 R7	
		社会増減数	人	△171	△654	171	
施策		事業	重要業績評価指標(KPI)				
		指標の名称	単位	基準値	現状値 R4	目標値 R7	
(1)住宅の確保	◇公営住宅整備事業	—	—	—	—	—	
	◇定住サポートセンター事業	相談窓口を通じた移住者数(単年)	人	92(H30)	38	100	
(2)移住者受け入れ体制の充実	◇特定地域づくり事業	派遣職員数	人	—	4	8	
	◇地域おこし協力隊事業	地域おこし協力隊を委嘱した人数(累計)	人	—	14	18	
		地域おこし協力隊の任期終了後の市内定住者人数(累計)	人	—	5	10	
(3)まちなか等の利便性の向上	◇商業再生支援事業	事業を利用した空き店舗等への出店数(累計)	件	19(H27～H30)	44	48	
(4)道路ネットワークの整備	◇道路改良事業	道路整備における継続事業の進捗率	%	32(H30)	55.5	92	
(5)公共交通の充実	◇生活交通ネットワーク再編事業	地域内交通の実施地区(累計)	地区	2(R1)	3	4	
	◇医師・薬剤師・看護師等確保対策事業	医師・看護師・看護学生奨学制度を活用して市内医療機関等に勤務する人数(累計)	人	7(H27～R1)	13	19	
(6)医療・福祉の充実	◇遠隔診療・遠隔相談事業【デジタル】	オンライン診療の有資格医師数	人	—	2	4	
	◇介護人材確保支援事業	介護職員初任者研修の修了者数(単年)	人	—	15	15	
		市内介護事業所への就職支援の補助対象者数(新規)(累計)	人	—	0	24	
基本目標4. 多種多様で魅力的な地域を形成する		指標の名称	単位	基準値 H30	現状値 R4	目標値 R7	
		安来市への愛着度(※総合計画アンケートより)	%	61.6(H30)	58.0	70.0	
施策		事業	重要業績評価指標(KPI)				
		指標の名称	単位	基準値 H30	現状値 R4	目標値 R7	
(1)地域コミュニティの担い手の確保・育成、地域の拠点づくり	◇地域づくり推進事業	地域づくりに継続的に取り組む地域数(累計)	地域	—	0	5	
	◇高校魅力化事業	市内高校生生の地域貢献意識の肯定的回答割合(3設問の平均値)	%	—	63.5	69	
(2)防災体制の整備	◇自主防災組織支援事業	防災士資格取得者数(累計)	人	34(R1.12)	47	52	
(3)ふるさと教育の推進	◇ふるさと教育推進事業	島根県学力調査<生活行動・学習活動調査>の肯定的回答割合(小学生)	%	—	85.5	85.5	
		島根県学力調査<生活行動・学習活動調査>の肯定的回答割合(中学生)	%	—	80.9	85.5	
	◇書かない窓口事業【デジタル】	転入届の操作に要する処理時間(平均)	分	—	40	10	
(4)デジタルによる利便性の向上	◇出張市役所サービスの導入事業【デジタル】	マルチタスク車両で提供するサービス数	件	—	0	15	
	◇オンライン申請拡充事業【デジタル】	対象手続のオンライン化	手続	—	40	51	
	◇AIチャットボット事業【デジタル】	AIチャットボットの応答数(月平均)	件	—	0	1,000	
広域連携 広域連携による魅力ある圏域づくりをめざす		指標の名称	単位	基準値 H30	現状値 R4	目標値 R6	
		圏域人口60万人の維持	万人	64.4(R1.12)	—	60	
3つの柱		中項目	指標の名称	単位	基準値 H30	現状値 R4	目標値 R6
		(1)アジアをはじめ世界に向けたゲートウェイ機能のさらなる活用	—	—	—	—	
		(2)インド(ケララ州)・台湾(台北市)との経済交流の拡大	—	—	—	—	
		(3)圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展	ビジネスマッチング商談件数(累計)	件	651(H30)	—	3,400
(1)国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成			圏域での外国人観光客宿泊数	千人	146(H30)	—	459
			圏域での国内観光客宿泊数	万人	408(H30)	—	433
	(4)国内およびインバウンド観光の推進		観光消費額	億円	1,040(H30)	—	1,160
			免税店登録店舗数	店舗	145(H30)	—	220
(2)未来をひらく交通ネットワークの形成		(1)2つの湖を介する「8の字ルート」等の早期完成	—	—	—	—	
		(2)重要港湾境港の利便性向上	—	—	—	—	
		(3)新幹線ネットワークの整備	—	—	—	—	
		(4)航空路線の充実	—	—	—	—	
(3)恵まれた生活環境を生かした圏域の形成		(1)圏域への移住・定住の促進	圏域内への移住者	人	3,543(H30)	—	3,000
		(2)自然環境の保全と活用	—	—	—	—	
		(3)健康長寿圏域の形成	—	—	—	—	
		(4)圏域内公共交通の利便性向上	—	—	—	—	

令和7年(2025年)

人口3万7千人を維持

2060年

人口3万人の維持へ